三鷹市立大沢台小学校　令和8年度 【家庭】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第5学年		**〈学習状況の現状と課題〉** ・手縫いでの針の扱いには個人差が大きく、継続的な指導が必要である。 ・家庭での調理活動の経験が少ないため、安全面から丁寧に指導する必要がある。 ・体験的な活動（制作）では、主体的に取り組み、自分のアイデアを生かしながら計画を立てたり、実践したりする児童が多い。 ・よりよい家庭生活のための工夫に対する知識が薄く、経験が少ない。	**〈指導方法の課題〉** ・手縫いの指導や、個別対応する時間が十分に確保できていない。 ・裁縫や調理などの活動には意欲的に取り組めるが、知識を学ぶ学習になると受け身になってしまう。 **〈授業改善策〉** ・制作・調理の際に使用する道具や機器の正しい使用方法を理解させるために、ICT機器や掲示物等を活用して、動画や写真で分かりやすくし、いつでも確認できるようにする。 ・ペアやグループで教え合う時間を設けたり、教員が個々の学習状況を的確に把握したりして、補充が必要な児童に支援できるようにする。また、必要に応じて保護者等のサポート隊を活用する。 ◎「自分が使う」、「家族のために」など、学習がどのように生かせるかを明確にして課題を出すことによって、より意欲的に、工夫して学習ができるようにする。 ・学習内容を家庭に啓蒙し、家庭で実践したり、児童の手伝いとして取り組ませたり、体験を通して家族の一員としてできることを考えていく。
第6学年	〈成果〉 ・ペアやグループで教え合いながら作業することで、楽しみながら技能を向上させることができ、お互いの得意分野を認め合う雰囲気ができた。 ・6年生へのお守り作りや作品作りなど意欲的に学ぶことができた。 〈課題〉 ・調理器具やミシンなどに不備があり、作業が進まないことがあった。計画的に改善が必要である。児童が上手に工夫し、譲り合いながら学習を進めた。 ・行事等で調理や裁縫などの作業のための学習時間が確保しにくくなる。学習意欲を途切れさせないためにも、行事を考えながら学習計画を立てる必要がある。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・洗濯や裁縫、調理など、自分の日常的に必要な技能を身に付けられている児童が多いが、個人差がある。 ・調理やものづくりなど家庭生活などへの興味はあり、技術を身に付けることは意欲的だが、知識の習得や実践につなげることは難しい。 ・整理整頓など学習したことが日常の生活に生かすことができない児童がいる。 ・実技授業に意欲的に取り組むが、後片付けなど最後まできちんと取り組める児童が少ない。	**〈指導方法の課題〉** ・調理や裁縫など、作業の個人差があったり、道具を共有したりするものは、時間内に個人の活動とグループ活動を両立させていく必要がある。 ・家庭生活での役割や仕事について理解したことをその後の生活へつなげていくことができていない。 ・授業の環境整備を日頃から行っていく。 ・準備から後片付けまで計画を立てて、最後まできちんと取り組めるようなワークシートやチェック表など取り入れる。 **〈授業改善策〉** ・個人差が大きくなる活動は、教え合いを取り入れ、互いに助け合いないながら身に付けられるようにする。 ・授業で学習したことを実生活で実践し、自分や家族の生活を豊かにすることを確認しながら学習を進める。 ◎家庭で体験したことを交流する時間を十分にとり、自分の役割を自覚するとともに、実生活に生かすよさを味わえるような授業を計画する。